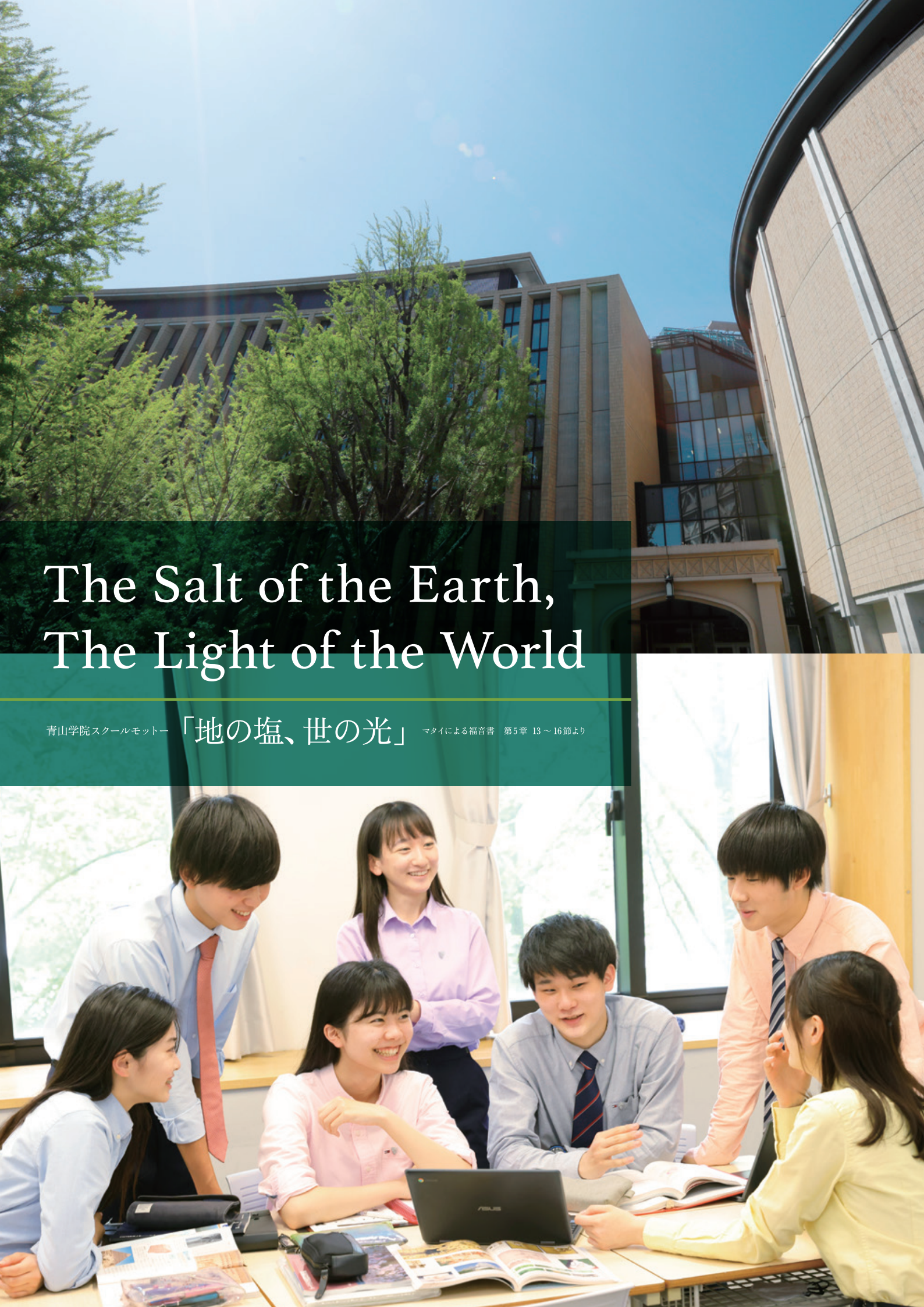




青山学院高等部

SCHOOL GUIDEBOOK 2023



The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院スクールモットー 「地の塩、世の光」 マタイによる福音書 第5章 13～16節より

青山学院教育方針

Educational Policy

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

高等部の教育目標

Object of Education

1. 礼拝と聖書の学びを通して、真実を求める心を培い、
神や人生について深く考え、
人を愛し人に奉仕する人間の育成に努める。
 2. 教科の学習を通して、総合的判断力・洞察力を持ち、
自分の人生の進路を切り拓く力をもつ人間の育成に努める。
 3. 学校の諸活動を通して、集団の中で自分の果たすべき役割を知り、
それを実行できる人間の育成に努める。
 4. 国際的な視野に立って
将来の社会に責任を負うことのできる人間の育成に努める。
- この教育目標のもとに、さらに各教科の教育目標ができております。

高等部部長メッセージ

Message

Rejoice Always いつも喜んでいなさい。

“Rejoice Always”(いつも喜んでいなさい)は新約聖書の言葉ですが、みなさんはいつも喜びの中にいるでしょうか。青山学院高等部は、いつも喜びに溢れる学校を目指しています。

青山学院のスクールモットーは“地の塩、世の光”です。これは、私たち一人ひとりが地の塩であり世の光である、というイエス・キリストの教えによるものです。「塩」は味付けに欠かせないものであると同時に防腐剤としての役割をもちます。また「光」は、闇の中で道を照らすものです。この言葉は、世の中によい味をつけ、荒廃を防ぎ、たとえ世界が闇に包まれていても希望の光を与えていく、という人物像を示しています。このスクールモットーには、私たち一人ひとりが神に愛され賜物を与えられているということを知り、その賜物を活かして人々や社会に貢献できる人間になってほしいという願いが込められています。

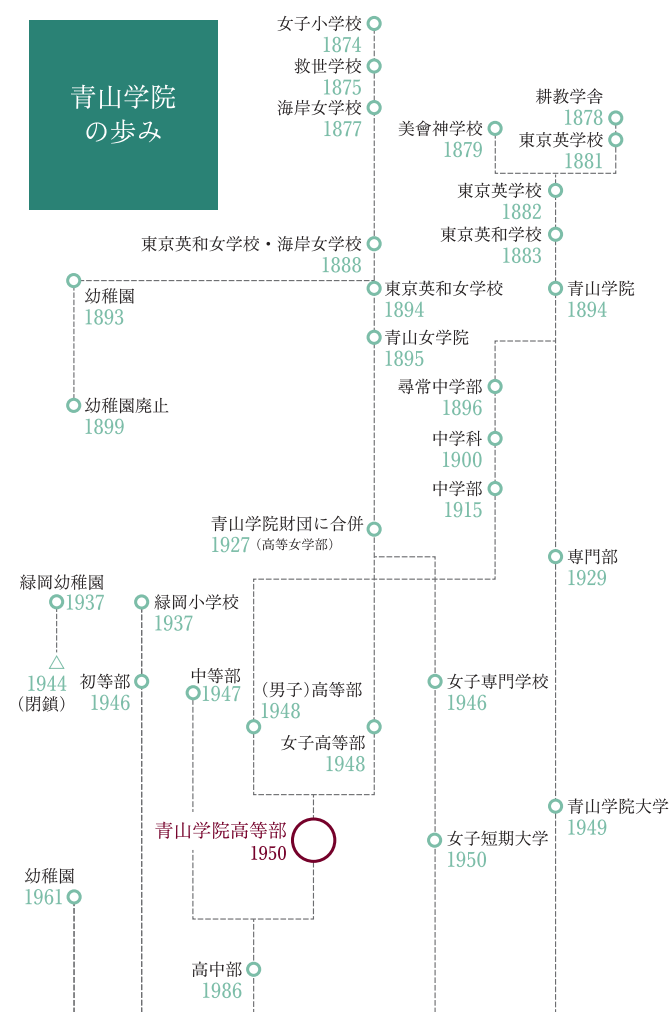
私たちが生きていくこれからの時代は、先行きが不透明な時代であると言われてしています。経済・教育・環境問題など様々な分野が過渡期にあり、分断や格差が助長されかねない状況にもあります。テクノロジーの発展によりコミュニケーションの方法や仕事の形態も大きく変化し、人間の役割も変化しつつあるようです。しかしそのような中にあっても、私たちにはより良い社会を築くという普遍的な課題に取り組む使命があります。青山学院高等部は生徒一人ひとりが深い学びと豊かな経験を積み、世界に貢献する人になっていく礎でありたいという願いを持っています。深い学びとは、知識や技能を身につけながら「なぜそうなのか」「何が大切なのか」「どうすればよいのか」を考え、真実や真理を追究し、自分の意志や主張を構築し、表現できるようになることです。一人ひとりが主体的に学ぶ探究者となることを互いに期待し合える環境がここにあります。また高等部には、キリスト教活動・国際交流プログラム・平和共生プログラム・高大連携プログラムなどの様々な活動が用意されています。これらのプログラムに積極的に参加して、グローバルな視野と愛と奉仕の精神をもって他者と共に生きるための素養を身につけることを多くの生徒に期待しています。

このような学びや活動を通して成功や充実感を経験すると、大きな喜びが生まれます。しかし一方で、時には失敗したり思い通りにいかないことがあったり、困難な試練が与えられたりすることもあります。そのような逆境の中にも喜ぶことや感謝できることがあり、むしろそれらの経験を通じて人として最も深い喜びの一つである他者との絆が深まったり、他者に貢献する喜びを体験できたりすることがあります。皆さんが、他者の役に立つことや社会に貢献できることの喜びを実感しながら、人との関わりにおいて本当に大切なことは何なのか、世界における自分の役割は何であるのかを学んでくれることを願っています。

高等部での学びが皆さん一人ひとりを成長させ、それぞれの賜物がこのグローバル社会で豊かに活かされ、皆さんの生活が喜びで満ち溢れることをお祈りしています。



青山学院高等部 部長
渡辺 健



聖書に触れたことで、
多くの気づきと出会いがありました

| 71期生(3年生) H.K |

マタイによる福音書 7章12節「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」は、人と関わる中で大切になる「思いやり」に気づかせてくれる箇所の一つだと思います。

グリーンキャンプでのディベートを通して、聖書の教えは現代社会にも通じることが多くあると実感しました。またレクリエーションを通して、今まで関わったことのなかった生徒や先生と仲を深めることができ、ここで出会えた友達は今ではかけがえのない存在となっています。さらに、世界ではキリスト教を信仰している人がとても多く、国家や文化とも深く結びつく宗教というものの理解は必要不可欠です。国際理解がより求められている今、宗教的対立が続いている地域があることなどから見ても、聖書を学ぶことはとても大切だと考えます。

コロナ禍で海外への行き来がしにくいような状況であっても、SNSを通じて国内外の人と繋がることができますが、気軽にやり取りができてしまうことによる弊害もあり、顔が見えないことをいいことに冷たい言葉を放ってしまったり、無意識でも相手を傷つけてしまうことがあります。コミュニケーションをとる中で互いをよく理解すること、相手の顔が見えなくても思いやりの心を持つことはなくてはならないことです。混沌とした世の中で、私たちは立ち止まって考えることや思いやりの心を忘れてしまいがちですが、どんなときでも無条件に道徳的に守るべき大切なことについて聖書や礼拝を通して触れることができます。高等部でのキリスト教との関わり、クラスメイト、先生との関わりは、何にも代えがたい有意義なものであると感じています。

「キリスト教教育」ing

page
05-06



「礼拝」も「聖書」も高校に入って初めて触れた大切な時間です。

BLUE PECOと私
対話を重ねて世界を知る

| 70期生(2021年度卒業生) T.C |

私は生徒自主学習団体「BLUE PECO」の代表として、Global issuesや東ティモールが抱える社会問題と向き合ってきました。東ティモールでは特産品であるコーヒーが安く買い取られ、貧困や格差が改善されていません。そこで私たちは、文化祭での「フェアトレードコーヒー販売」や「東ティモールとのオンラインイベント」を通じて問題意識を共有するとともに、コーヒーを対等な立場で購入することで、消費者だけでなく共同生産者として東ティモールの人々を応援しています。また高等部には、Global weekという世界の諸問題や共生について考える週が年に2回設けられているため、この期間を活用して、SDGsに対する私の考えや思いを発信しました。一人一人の意思決定が大きなムーブメントとなり、人や自然が共生できる希望ある未来に繋がる、すなわち、SDGsは未来への道を示すコンパスであると考えています。

東ティモールで活動するNPOの方、修学旅行で講演してくださった被爆者の方、宮古訪問プログラムで出会った東日本大震災の被災者の方々。私は多くの方と出会い、経験や体験を伺い、対話を重ねてきました。これらの出会いと対話により、「共に生きることは、互いの価値観や背景を知り、受け入れることから始まる」のだと知りました。また、対話を通じて問題に対する当事者意識を持つよう努めてきました。大学ではグローバルガバナンスや環境政策を学び、将来は人や自然環境に寄り添った国際協力を実行していく人になりたいと思っています。

「平和・共生」ing

page
09-10



STORYing

3年後のその先へとつながるものがたり

高等部には授業の枠を超えた多彩な活動があります。
クラブ活動、生徒会、国際交流、そして社会との関わり——。
生徒の数だけある活動の軌跡は、
一人ひとりの人生の糧となり、多様な将来につながっています。

日英の教育の違いを感じた
リーススクールとの交換留学

| 70期生(2021年度卒業生) K.S |

英語が得意ではない僕が短期交換留学プログラムに参加したのは、日本語が通じない環境の中で自分は何が学べるかを試してみよう、と思ったからです。

交換留学先のイギリスのリーススクールでは、国語や数学などの科目のほかに、英国伝統の「演劇」や、日本ではあり得ない「軍事教練」の授業がありました。「林の中で敵と遭遇したらどうするか?」という実地訓練で真剣な表情になったクラスメイトの顔を鮮明に覚えています。

また、ICTを用いた授業も新鮮でした。交換留学はコロナ禍の前で、そのとき日本ではICTはほとんど用いられていなかったため、日本で受けている授業との違いに驚きました。新型コロナウイルスの影響によりオンライン教育でスタートした2年生、一概にどちらが良いとは言えませんが、日本のICT教育はやっと諸外国に追いついたのだと思いました。

イギリスの教育環境や文化を体験できたことは、自分の将来について考えるきっかけにもなりました。何も将来の進路を考えていなかった中で、外国と関わるというひとつの可能性を見つけられ、自分の進路の選択肢をひとつ増やすことができたと思います。まだ進路は決め切れていませんが、短期間でも海外に行けたという経験は、自分の人生において大きな価値を持つものであったと思います。

「高大連携」ing

page
11-12



将来を見据えた学びを通して
視野も未来も大きく広がりました

| 70期生(2021年度卒業生) I.Y |

私は高等部入学前から、大学で「国際政治を学ぶこと」を目標にしていました。社会が大好きな私は、多国間の問題を捉えた上で日本を見つめ直し、将来の夢を探そうと考えていたからです。そのため、放課後に青山学院大学の授業を履修できる制度を利用して、国際政治経済学部の「開発入門学」を受講しました。今まで、国際政治は歴史的・文化的側面から捉えるものだ、と決めつけていた私にとって、世界の現状を経済学から読み解いていくことは極めて刺激的でした。同時に、数値を伴う故に現実的で衝撃的な事実は私の知らない世界の裏側の存在に気付かせてくれました。自分の想像とは桁違いな数値が並んだ情報には目を見張りました。もちろん、日々世界のニュースに対してアンテナを張っていれば得られる情報であったかもしれませんが。しかし当時その習慣がなかった私にとっては、意識を変化させてくれる非常に大切なきっかけとなりました。このことから、私は国際政治経済学部の経済学科で学びたいとさらに強く意志を固めました。試験のために知識を詰め込むような勉強ではなく、将来を見据えた学びはワクワクするものです。そして同時に、自分の視野を大きく広げてくれます。私は、大学と連携して授業を履修することは未来の自分の指針を立てるために役立つと強く感じます。高等部での経験を糧に、大学ではより多くの知識を得て学びを深められるように努め、幅広い視野を培ってグローバルに活躍できる人になりたいです。



「ホストファミリー」とは
今でもよく連絡を取っています。

「国際交流」ing

page
07-08





キリスト教教育



WEB「キリスト教教育」ページ

真実を求める心を培い、 神や人生について深く考える力を育てる。

キリスト教教育は、米国メソジスト教会の宣教師によって建てられた
青山学院の教育の根幹をなすものです。
生徒たちがキリストの愛に触れ、自己の生き方を見つめ、
隣人を愛し社会に貢献できる人として巣立ってくれることを願っています。

人生の道標、心の支えになる聖書のことば

宗教主任 山元克之

「隣人を自分のように愛しなさい」という聖書の御言葉があります。自分を愛し隣人を愛するとはどういうことか、学校生活の中には常にその問いが溢れています。本校ではキリスト教の信仰を押し付けることはありません。しかし長い人生で壁にぶつかったとき、何かを選択しなければならないときに、心の引き出しから取り出して、支えや道標になるはずです。



神の愛を感じる毎日の礼拝

全校生徒と教職員がともに講堂に集い、聖書の御言葉(みことば)を通して自らを振り返る毎日の礼拝は、この学校が最も大切にしている時間です。
週一回、各クラスで行われるホームルーム礼拝では、生徒が司会、奨励(話)、奏楽等を担当し、クラスメイトの言葉に耳を傾けます。

週に一回の「聖書」の授業

青山学院の教育の土台は聖書の御言葉です。そして、この御言葉を学ぶ時間が「聖書」の授業です。授業では、聖書を手に取り、自分自身について、また隣人について考え、神と私たちとの生きた関係について学びます。また、さまざまな切り口から聖書を紐解くと、自分自身の生き方を考えるだけでなく、キリスト教を信仰する世界の人々の価値観を理解することができます。

キリスト教に触れる様々な行事

夏休みのグリーンキャンプ、冬休みのホワイトキャンプは、大自然の中で仲間との親睦を深め、聖書を学び、神様や人生について考える機会です。また、クリスマスやイースター、特別礼拝などを通して、キリスト教の伝える真理に深く触れていきます。



ホワイトキャンプの様子



聖歌隊

キリスト教教育活動に関わるクラブ

オルガン部、聖歌隊、ハンドベル部は礼拝での奉仕をする特設クラブです。聖歌隊は外部の合唱コンクールでも活躍し、オルガン部から音楽大学に進学する生徒もいます。ABF(聖書交友会)は聖書が語りかけるメッセージに耳を傾けるクラブ活動です。



国際交流



WEB「国際交流」ページ

国や文化の違いを超えて、他者を理解し支援することのできるサーバントリーダーを育てる。

本校の国際交流が目指すものは、「価値観の多様性 (diversity) の共有」です。これは、世界中の人々が「愛と平和」のうちに互いを認め合い、共に生きるというイエス・キリストの教えに根差したものです。本校はその思想を実践し、グローバル化の時代に対応できる人間の育成に励んでいます。

Teacher's Voice

多様性の受容は青山学院の伝統です。

「ダイバーシティ」という言葉が一般的になる前から、青山学院には多様性を受容する空気が流れていました。さまざまなバックグラウンドを持った生徒が同じホームルームで学び、お互いを認め合っています。本校の国際交流プログラムは、隣人の価値観を認めながら、進んで人と社会に仕え、その生き方が世の光となる人、「サーバントリーダー」を育てることを目指しています。

短期交換留学プログラム (学校間交流)

英国ケンブリッジの名門パブリックスクールであるリースクール、ルネサンスの文化を色濃く残すイタリア・ミラノ郊外にあるレニャーニ校との間で姉妹校提携を結んでおり、それぞれ数名の生徒による約2週間の短期交換留学を実施しています。ホームステイや現地校の寮で生活をしながら、授業や課外活動などのアクティビティに参加しています。

カナダ・ホームステイ

夏休みに2週間、約30名でトロント市近郊のベリー市を訪問します。地域の施設 (老人ホーム・YMCA等) の訪問、チャリティー活動、ナイアガラの滝見学、大リーグ観戦、カヌー体験など様々なイベントが用意され、異文化や大自然を体験できるだけでなく、英語力を試す格好の機会となっています。

長期海外留学

学外の各種留学斡旋機関の派遣などによって1年間の長期海外留学をする場合に、休学またはそれに準ずる手続きを経て高等部に復帰することが可能です。帰国後に同じ学年に戻る第一種留学と、年下の学年に戻る第二種留学の二種類の制度があります。年間で平均して10~15名程度の生徒がこの制度を利用しています。

帰国生教育

本校は1970年代から、毎年一定数の帰国生を受け入れてきました。帰国生は普通のクラスに入り、異文化の体験者として周囲に影響を与えてくれます。一方、帰国生が円滑に学校生活に順応できるよう、国際交流員の教員が「アドバイザー」となって、学校生活や学習の問題の相談に個別に応じる体制を整えています。



長期留学生受け入れ

毎年数名、海外からの長期留学生を引き受けています。英語圏出身だけではなく、さまざまな国や地域出身の留学生がいます。留学生はホームルームに所属してクラスメイトと共に授業に出席し、学校行事やクラブ活動にも参加します。長期留学生から各国の文化や価値観、政治経済、他国から見た日本について学ぶことも多く、留学生は国際理解の重要な役割を担っています。



平和・共生



WEB「平和・共生学習」ページ



「平和を願う人」から「平和を実現する人」へ。

過去を見つめ、現在を知り、未来を描く。

これが、本校の平和・共生教育の理念です。

「他者と共に生きる」のは決して易しいことではなく、

現実には複雑な問題が山のようにあります。その山積みの問題から

逃げ出さずに、新しい知識と出会い、人と出会い、試行錯誤することで、

ジグソーパズルを組み立てるように未来を創造する力を養います。

「会いに行く」から、はじめよう。

平和・共生教育を支える力は、生徒たちの自発性、探究心です。フィリピンや東ティモール、岩手県宮古市などの訪問プログラムに参加した生徒たちは、数々の出会いの中で、地域の課題や地元の人たちと話したことを「自分のこと」として悩み、考えるようになります。そして、考え抜いたアイデアを校内・校外で実行することで、さらに新しい学びや経験が生まれます。見栄えだけがよい支援活動ではなく、地道に、長期的に地元の人々と向き合ってきたからこそ見えてくる支援のかたちがあります。修学旅行でも同様に、長崎市の人々と出会い、インタビューや交流を通じて、平和やキリスト教などへの思いを受けとめることで生徒の心の中に未来への種火をともします。

Teacher's Voice

修学旅行を軸にした平和学習

本校の修学旅行は3泊4日で長崎から阿蘇までを中心に九州をまわります。特に長崎市では、「トロ神父と潜伏キリシタンの歴史を伝える」「長崎から世界への平和メッセージ」「長崎の歴史からグローバル社会を考える」など主題を設け、観光地を見学するだけではなく、新聞社への取材や放射線の研究施設への訪問、さまざまな専門家へのインタビュー、長崎市内の高校生や大学生とのディスカッション等を含む探究学習を行います。

岩手県宮古市の高校との交流

東日本震災の年から岩手県宮古市の高校との交流を続けています。現地を訪れ、被災地について、防災について直接肌で感じながら学ぶとともに、異なる地域・環境の高校生と一緒に考えながら交流を深めています。文化祭には、防潮堤で有名な田老地区の宮古北高校の生徒が来校し、コラボデザイングッズや特産ワカメのチャリティー販売を行うなど協力して活動しています。

青山学院フィリピン訪問プログラム

クリスマス礼拝での献金によってスポンサー（里親）支援をしているフィリピンの子どもたちに会いに行く訪問プログラムです。フィリピンで暮らすスポンサーチャイルドの家庭や学校、支援センターなどを訪問し、一緒に遊びながら、支援とはなにか、共に生きるとはどうすることなのか、といったテーマについて議論し、理解を深めます。青山学院初等部、中等部、大学と合同で行っている青山学院全体のプログラムです。

東ティモールスタディツアー

東ティモールのコーヒー生産農家を訪問するスタディツアーです。農村のフィールドワークを通じて教育、環境、医療などの地域の課題から、コーヒー産業とフェアトレードといったグローバルなテーマまでを広く研究します。この開発経済学の研究プロジェクトは、生徒自主学習団体BLUE PECOと協力して取り組んでおり、文化祭ではBLUE PECOによる研究報告、フェアトレードコーヒーの販売等を行っています。



LogBook

本校では、多くの授業の中で平和・共生に関するテーマを取り扱っています。理科では原子力や放射線について学び、現代社会では核兵器にまつわる国際的な議論、平和憲法のあり方などを学びます。また、聖書の授業ではキング牧師の生涯を、英語では映画「Invictus」などを通じて、様々な文化的背景を持つ他者と共生する社会の在り方について、思考を深めていきます。これらの学びは3年間を通して行われ、生徒はさまざまな教科を横断した総合的な平和・共生学習の記録ノートである「LogBook」に学びの軌跡をまとめていきます。



▲国際政治学科の学生がつかむ国際社会：キューバ危機とシリア内戦を素材として(2019年度国際政治経済学部国際政治学科講座)



高大連携



WEB「高大連携」ページ

未来を見据えた学びで、可能性を切り拓く。

高校時代に触れる大学の学問は、それぞれの専門分野の広さと奥深さを見せてくれます。同じ敷地内に大学のほとんどの学部があるという恵まれた環境を活かし、大学との連携を深め、一貫教育のさらなる良き実りを得ることをめざします。

学問入門講座

土曜日の午前中に、青山学院大学・専門職大学院の教員が、それぞれ専門分野について高校生にわかりやすく講義をする「学問入門講座」を実施しています。生徒は自分の関心のある講座を自由に選び、大学での学問研究の面白さ、奥深さに触れることができます。



▲中世日本の宗教美術における「オリジナル」と「コピー」をめぐって(2019年度文学部比較芸術学科講座)



▲人に役立つ情報システムのつくりかた(2019年度社会情報学部講座)

2022 年度学問入門講座テーマ		
学部学科		講義テーマ
文学部	英米文学科	(複数の)「愛」についてーアメリカの詩を中心にー
	フランス文学科	カナダのフランス語圏についてーケベック州を中心にー
	日本文学科	日本語教育を学ぶーことば・文化・共生ー
	史学科	イスラームと近代、アジアの近代
	比較芸術学科	元祖「ドレミの歌」とJ.S. バッハの《インヴェンション》
教育人間科学部	教育学科	本がつなぐ過去と未来ー図書館から眺める教育のかたちー
	心理学科	心理学でウソは見破れる? : 脳や身体から見る心
経済学部	経済学科	日本経済の持続可能性: 将来世代への負担とは何か?
	現代経済デザイン学科	グローバル経済の分析ー比較優位ー
法学部	法学科	生活と法、法学
	ヒューマンライツ学科	現代世界は「平和」か?ー国際関係論へのいざないー
経営学部	経営学科	商品開発を通じて企業行動の仕組みを理解する
	マーケティング学科	はじめての流通
理工学部	化学・生命科学科	微生物に学ぶ生命の不思議ー知られざる遺伝子機能の探索
	機械創造工学科	最先端技術における熟科学ー医療から宇宙までー
	情報テクノロジー学科	どうなる未来のコンピュータ?ー人とコンピュータの新たな関係
国際政治経済学部	国際政治学科	欧州統合の始まり、展開、そして危機
	国際経済学科	経済学+政治学=政治経済学: 経済と政治を一体的にどう理解するか?
	国際コミュニケーション学科	なぜ差別はなくなるのか?ー人を隔てる「We」と「They」
総合文化政策学部		デジタルカルチャー
		ケースで学ぶマーケティング(超入門)
		「都市学」とは何か。
社会情報学部		つくれるだけ・企画できるだけでは不十分ー情報システムをつくるにはー
		簡単な数学を使って、複雑な金融商品の価格を求めてみよう
		社会情報学部で学ぶ経営
地球社会共生学部		人権保障の歴史的背景と今日の日本と世界における人権保護状況
		ジャーナリズムの「モノを見る目」
コミュニティ人間科学部		図書館でまちづくり?ー地域と図書館の新しい関係
国際マネジメント研究科		多様な家族を支える福祉って何?ー子どもの権利としあわせを考える
国際コミュニケーション研究科		サステナブルファイナンス
会計プロフェッション研究科		自由市場経済における情報の役割
キリスト教関連科目		すべての人の善い社会を目指してーキング牧師の信仰とリーダーシップ

大学授業の履修

3年生の希望者が放課後に青山キャンパスの大学の授業を履修して、内部進学した際にその単位が認められるという制度があります。大学生と一緒に場で授業を受けることは、「学問入門講座」とはまた違った意味で、知的探究心の向上につながると期待しています。

国際理解・留学準備プログラム

早い時期から海外への関心を高めてグローバル感覚を養うことを目的として、大学国際交流センターと共催で以下の3つの特別講座を設けています。

- 海外体験の魅力やグローバル化への対応等の講義を含む「総合オリエンテーション」
- 海外留学の際に必要なとされる英語検定「IELTS (アイエルツ)」の対策講座
- 大使館担当者が、自国文化の紹介や日本との繋がりなどを英語で講義する「大使館講義シリーズ」



▲大使館講義(フィリピン)



青山学院大学学部学科・大学院研究科 一覧

大学	
文学部	英米文学科
	フランス文学科
	日本文学科
	史学科
教育人間科学部	比較芸術学科
	教育学科
経済学部	心理学科
	経済学科
法学部	現代経済デザイン学科
	法学科
経営学部	ヒューマンライツ学科
	経営学科
国際政治経済学部	マーケティング学科
	国際政治学科
	国際経済学科
	国際コミュニケーション学科
総合文化政策学部	総合文化政策学科
理工学部	物理科学科
	数理サイエンス学科
	化学・生命科学科
	電気電子工学科
	機械創造工学科
	経営システム工学科
	情報テクノロジー学科
社会情報学部	社会情報学科
地球社会共生学部	地球社会共生学科
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学科

大学院	
文学研究科	国際政治経済学研究科
教育人間科学研究科	総合文化政策学研究科
経済学研究科	理工学研究科
法学研究科	社会情報学研究科
経営学研究科	
専門職大学院	
国際マネジメント研究科	
会計プロフェッション研究科(会計専門職大学院)	

教育課程

Educational System

主体性を持って「学び」を選択する。

青山学院大学への進学者は8割以上。受験勉強に偏ることなく学ぶことができるのが高等部の特徴です。

数多くの選択科目や総合的な探究の授業、大学教授による学問入門講座など、好奇心を刺激し、探究心が求めるままに選択できる学びの機会は豊富です。

多彩な選択科目から自らに必要な学びを掴み取る

本校は授業週5日制を実施しており、1日6時限(2022年度より木曜日のみ7時限)で50分単位の授業を行っています。「愛と奉仕の精神」「思考力・判断力・コミュニケーション能力」「他者と共に生きようとする姿勢」「グローバルな視野」をもつ人間の育成に努めることを目標にカリキュラムを作成しています。

2年次からは文・理の選択科目が置かれ、3年次ではカリキュラムの半分を選択科目が占めます。これにより、各自の関心のある科目をより深く学習でき、青山学院大学への内部進学はもちろんのこと、多様な進路選択にも対応できます。

土曜日には総合的な探究の時間の一環として、青山学院大学・専門職大学院の先生方による《学問入門講座》(⇒11・12ページ)を開講しており、進路選択に役立てています。

教科の枠を超えて深く学ぶ自由選択科目を新設

今回のカリキュラム改訂で新たに「自由選択科目」が設置されることになりました。自由選択科目は、学びたい生徒が自由に受講でき、自らの問題意識をベースに深く掘り下げて学ぶことができるように作られた授業です。中には、教科横断型のものも用意されています。

多様な目標を持つ仲間と同じホームルームで学ぶ

本校では文系・理系といったコース制は設けておらず、ホームルームには多様な進路志望のクラスメイトが共存しています。また、必修の英語の授業ではホームルームを習熟度別のクラスに分割し、学習効果を高めています。

カリキュラム

	教科・学年	1年	2年	3年
01	聖書	聖書(1)	聖書(1)	聖書(1)
02				
03		現代の国語(3)	現代文総合Ⅰ(2)	現代文総合Ⅱ(2)
04	国語			
05		言語文化(2)	歴史総合(3)	政治・経済(3)
06				
07	地歴公民	地理総合(2)	公共(2)	
08				
09		数学Ⅰ(3)	数学Ⅱ(4)	3単位選択科目から3科目を選択(9) ^{注4}
10	数学			
11		数学A(2)	統計入門(1)	
12				
13	理科	生物基礎(2)	物理基礎(2)	
14				
15		体育(2)	体育(3)	体育(2)
16	保健体育			
17		保健(2)		英語コミュニケーションⅢ(3)
18			英語コミュニケーションⅡ(3)	
19	芸術	2単位選択科目から1科目を選択(2) ^{注1}		論理・表現Ⅲ(2)
20			論理・表現Ⅱ(2)	
21		英語コミュニケーションⅠ(3)	古典探究(Ⅰ)または化学基礎(Ⅱ)(3) ^{注2}	2単位選択科目から3科目を選択(6) ^{注5}
22	外国語			
23		論理・表現Ⅰ(2)		
24			2単位選択科目から2科目を選択(4) ^{注3}	自由選択科目〔総合的な探究の時間〕(2)
25	家庭	家庭基礎(2)		
26				
27	情報	情報Ⅰ(2)		
28				
29				
30				
31				
32				

注1 音楽Ⅰ、美術Ⅰ、工芸Ⅰ、書道Ⅰ
注2 理科の必修科目に関しては、2年次までに3科目を履修するものとする。化学基礎を履修しなかった場合は地学基礎を履修するものとする。
注3 文学、数学B、化学基礎(a)、地学基礎、物理Ⅰ、音楽Ⅱ、美術Ⅱ、工芸Ⅱ、書道Ⅱ、オーラルコミュニケーションA、リテラチャー、英語演習A、プログラミング入門
注4 古典探究(Ⅱ)、地理探究、日本史探究、世界史探究、数学Ⅲ、物理、化学、生物、選択音楽、選択美術、上級英語
注5 聖書特講、国語表現、国語特講A、国語特講B、日本史特講、世界史特講、現代史特講、マーケティング、地理特講、現代社会特講A、現代社会特講B、聴くこと・知ること・伝えること、数学C、数学基礎演習、数学総合演習、数学発展演習、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物総合、地学、環境科学、球技A、球技B、体育特講(ダンス)、音楽Ⅲ、美術平面、美術立体、工芸Ⅲ、書道Ⅲ、オーラルコミュニケーションB、メディア・イングリッシュ、リスニング・コンプリヘンション、英語演習B、食物基礎、被服基礎、ICT活用探究実践、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語

平和・共生論文

「平和と共生」教育の集大成

本校の平和・共生教育は、「平和な社会、他者と共生する社会」を実現するために、具体的な課題を見つけ、解決しようとする態度を養うことを目的としています。

平和・共生論文とは、任意の社会課題の一つ決め、問題の分析や解決へのアプローチについて研究する論文で、本校では、生徒全員が執筆します。論文執筆の技術はM.アイゼンバーグの「Big 6 Skills Model」をベースにアレンジされたレクチャー動画「6ステップ」を用いて三年間をかけて修得します。この論文の執筆は「総合的な探究の時間」の一部に位置づけられており、生徒はこの執筆経験を経て、生涯学び続けるために必要な態度と技術を養います。また、学年で10名の優秀論文に選出された生徒の論文は『平和・共生論文集』に全文が掲載されます。



論文発表会

70 期生 平和・共生論文 タイトル例

- 未来100年における廃棄物との共存 幸福×ゴミを紐解く
- 日本における男性差別 一性差別の被害者は女性だけかー
- 難民の隣人になるためにー日本人の宗教的深層意識と難民受け入れ低迷の関係性ー
- 日本における児童虐待の今を見つめる
- 保育士の労働環境からみる日本の保育課題ー待機児童解消と保育の質確保を両立させるためにー
- 女性の経済的活躍を目指してー変化する社会を生きる私たちの働き方ー
- 海洋プラスチック問題をリードするー廃プラスチックをアジア諸国に輸出してきた日本がすべきことー
- メディアの中のLGBTsー適切な表現とはー
- ホームレス問題の現状と自立支援ー孤立するホームレスを救うためにー
- 住民主体の地域活性化ー「みんなの学校プロジェクト」成功への道のりを辿ってー



平和・共生論文集

ICT教育

深い学びの実現と情報活用能力の育成

協働的な問題解決学習や探究的な学び・時間や空間の制約を超えた学びの深化のため、多様な教育活動を可能にし、より深い学びを実現するツールとしてICT機器を活用しています。

同時に、学習の基盤となる情報活用能力・情報社会における責任ある態度の育成を目指します。

ICT 教育推進の歴史	
-2018	校内無線LAN環境の整備
	全普通教室に電子黒板を設置
2019	G Suite for Education (旧称) を導入
	全校生徒にGoogleアカウントを発行
2020-21	1人1台の学習用端末導入(1年生)
	ICTステーション開設
	1人1台端末の環境の拡張(1、2年生)
2022	全校生徒1人1台環境

ICT 機器を用いた教育実践

授業

意見を同時に書き込みながら行うグループディスカッション、協働で作成した資料を用いたプレゼンテーション、クイズアプリを用いた学習成果の発表、自分の体の動きを端末で撮影・分析して改善に取り組む(体育)といった活動を実施しています。



学校生活

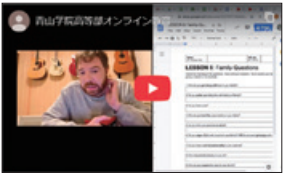
アンケートフォームを用いた意見収集や希望調査、プリントのオンライン配布、ビデオ会議ツールを利用した外部とのインタビューなど、学校生活全体でICT機器の利活用が進んでいます。



オンライン教育期間への対応

オンライン教育となった際には、学年やクラス・授業ごとに作成されたGoogle Classroomを通じて連絡事項や課題を配信しています。

授業ではオンライン課題や授業動画の一方的な配信だけでなく、リアルタイム双方向型の授業やアンケートフォームを用いた学習状況の確認などを実施し、互いにコミュニケーションを取りながら学習を進められるよう工夫しています。また授業以外でもビデオ会議ツールを利用してホームルーム活動や委員会活動を行っています。



ICT 教育の今後

ICT機器はあくまでもツールの一つであり、使うことが目的ではありません。「よりよい学びとより豊かなコミュニケーションのためのツールとして、使い方をよく考え、責任をもって利用していくこと」を忘れることなく、適切に機器を利用しながら、情報社会により良く参画していく態度を自ら学び、養っていくことができる教育に取り組んでいきます。

教科学習

幅広い視野をもち
人間としての基礎力をつける

聖書

青山学院の心を学ぶ

聖書の授業は、一教科の学びとして位置づけられていますが、学問的な領域にとどまらず、スクールモットーの「地の塩、世の光」が表す人間形成を目指し、この時代を生きていくことについて聖書から学びます。青山学院での学びの土台となる授業です。

外国語

「英語の青山」の名にふさわしい良き伝統

英語を学ぶことを通して、普遍的なものを追い求める心を養い、広く世界全体に目を向けて、国や文化の違いを超えて社会に貢献できる人を育てることを目指します。必修授業では習熟度別に授業を行い、各生徒が自分のレベルに合ったスピードで英語を学習できるように配慮しています。選択の授業では、英語を道具として使い映像作品を製作して発表する発信型の授業、長文読解や文法演習を行う授業、CNN やNews website を扱う授業など、生徒のニーズに合わせた幅広い種類の授業を用意しています。また、第二外国語として、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語を選択することもできます。

国語

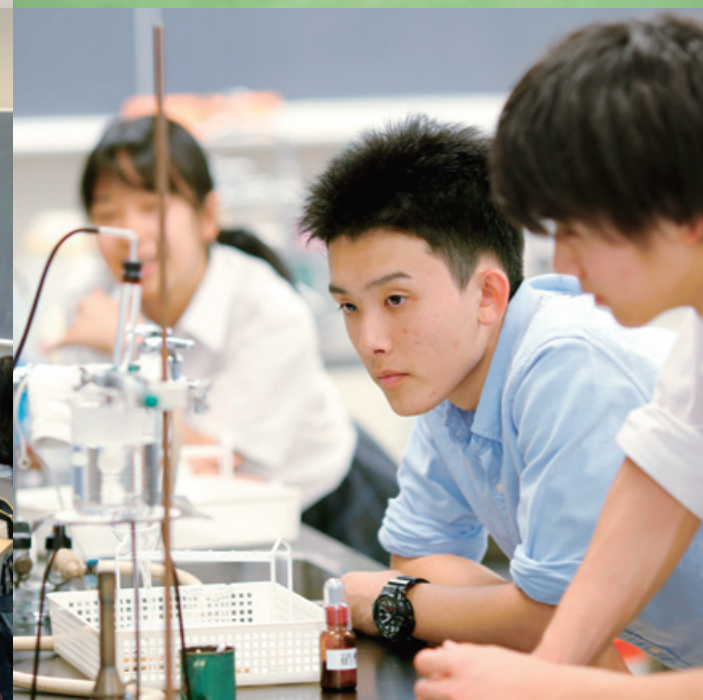
言葉を正しく理解し、自分を表現する力を養う

国語科の目標は「読解力を養い、表現力を身につける」ことにあります。高等部では近・現代の文学に加えて古典にも重点をおき、生徒一人ひとりの日本文化総体に対する関心が深まることを最終的な目標としています。

地歴・公民

身近なことから世界を広げる

①現代の複雑な世界が形成されてきた過程をさぐる歴史、
②地域的・空間的視野から自然や社会をとらえる地理、
③政治・経済などの社会的構造から物事をとらえる公民、という三つの大きな視野から社会現象を見ていきます。また、選択科目の特講では、グループ学習、レポート、討論、発表などを通じて、自ら調べて考えるなかで、主体的な学習能力、課題に対する分析力、論理的思考能力、表現力など、これからの社会を担う力を育てることを目標とします。



数学

数学は文化である

数学は、先人たちが長い時間と多大な労力を費やして発展させてきたものです。このような“文化”としての数学を学ぶことを念頭におきながら、現代文明に必要な数学的素養を培います。2年生では、統計の基礎を体系的に学ぶ時間を設けます。授業を通して数学の基本的な技術を習得することにより、柔軟な論理的思考や創造性が生まれます。そして身につけた知識を駆使し、自ら問題解決ができる能力を育みます。

理科

冷静な分析と総合的な判断

現代社会は環境問題をはじめ多くの問題をかかえています。その責任が科学にあるように言われることもあります。はたしてそうでしょうか。冷静に問題を分析し、誰にでもわかる言葉で解決の道筋を模索することが問われているのではないのでしょうか。理科において一番大切なことは自然から学ぶことです。そのため実験や観察を重視し、できる限り多くの時間を割くようにしています。

保健体育

心身ともに強く成長することを願って

生涯体育を実践する基礎を培う高校時代。青年期に必要な運動量を確保し、生徒が主体となって協働的に取り組み、創意・工夫、協力して運動が行える種目を実施しています。保健では身近な事柄を教材にとりあげ、生涯において必要な保健的知識を習得し、実践的な健康・安全管理ができることを目標としています。

家庭科

生活全般を実践的に学ぶ

家庭科では、人間が生きていくために欠かせない、生活の基本的な知識および技術を学ぶだけでなく、現在の家庭を取り巻く諸問題にも目を向けさせます。そして、自立した生活者としての意識を高め、自分はどのような生活・人生を送りたいのかを考える機会を与え、自分の生活・人生をデザインする力を身につけることを目指します。

芸術

心を豊かに

音楽では、①知識を増やし・感性を磨き・技術を高める事によって、より「美しい音」を知り・感じ・表現する事、②そして、誠実にかつ真摯に音楽に向きあい取り組んでいく心と身体のパフォーマンスを学びます。
美術では、基本的な知識や技術を土台にして自らの考えを造形的に表現することを学びます。また、鑑賞や発表を通して他者との相互理解を深めます。

情報

欲張りに探究する心、的確に判断する力を

次の3本柱を中心に、その知識と技術を身につけることを目標にしています。

- I. 情報処理の大切さと注意すべき点を心得る
- II. 情報処理の道具として、ハードウェアの仕組み、ソフトウェアの使い方を習得する
- III. IおよびIIを踏まえながら、1つのテーマに関する問題解決や探究学習を実践する

選択科目

上級英語

英語で考える「世界の現状」

今日世界が抱える問題(戦争、差別、貧困など)について学んでいます。これらの問題が互いにどのように結びつき、その背後にどのような原因があるのかを考えます。その過程において、生徒は各テーマに関連した約400の表現を学び、それらとつながりの深い言葉を自ら考えます。その上で話し合い、発表へと展開させていきます。高等部の中でもっともチャレンジングな授業のひとつです。ネイティブ教員が担当。

リスニング・コンプリヘンション

「生きた英語」を身につける

スピーチ、ニュース、ヒットソング、映画などのディクテーションを通して、文法、語法、発音、英語の正しい発話の仕方などを体系的に学んでいく授業です。歴史上の名スピーチを聴き取って暗唱し、それを講堂の舞台で発表してみたり、集大成のグループプロジェクトとして、映画のアフレコ制作に取り組んだりしています。アフレコでは班ごとに映画の台詞を聴き取って台本を起こし、映像に合わせて皆が役を演じながら、自然と生きた英語を身につけていきます。

オーラル・コミュニケーション B

成功のための「会話を越えた」ツール

何も持たずに1,200席のPS講堂のステージに立ち、スライドを用いて、堂々で行われる英語のプレゼンテーション。この授業では、簡単な物語紹介からフォーマルなディベートにいたるまで多岐に渡るスピーキングを学びます。発音や語彙の指導はもちろんのこと、週ごとのインターネット教材を駆使したサポートを徹底し、オリジナルな着想から表現までに必要となる技術を養います。ネイティブ教員が担当。

国語表現

「書く」ことで表現力・思考力を磨く

基本的な技術や表現の工夫を確認しながら、文章力の向上を目指します。互いの文章への批評や、ディベート形式の議論、グループ発表等も行い、意見や主張を理解し合う経験を重ねています。論理的文章だけでなく、自由な発想で「書く」ことを楽しむ課題もあり、表現力・論理的思考力をバランスよく身につけることを目指しています。年度末には編集委員をたてて記念文集を作成しています。

選択美術

自己探求のその先に

選択美術は3単位の選択科目です。1、2年次で学んだ内容を土台にして、自らの感じたことや考えたことを造形作品として出力し、発信するまでのプロセスを大切にします。油彩画や自由制作に長い時間をかけて悩みながら取り組むことで自分と向き合い、今まで気づかなかった一面を知る機会になればよいと考えています。また社会に目を向け、自ら作品のテーマを探る姿勢も重要です。そして美術室には同じように全力で表現に向かう仲間がいます。制作中に交わす何気ない意見交換や作品の鑑賞と対話を通して、他者とのコミュニケーションについても深く考えることのできる授業です。



現代社会特講 B

ディベートで学ぶ社会の諸問題

「憲法第9条を改正すべきか」、「核廃絶は可能か」、「過去の戦争とどう向き合うべきか」といった政治学における主要なテーマから、「ネット言論を規制すべきか」、「感染拡大防止のためのロックダウンに賛成か」といった時事的な問題まで、様々な課題を設定し、グループで話し合い、必要な資料を集め、作戦を練った上で、ディベートを行います。その過程で、自身の考えとは異なる意見に触れて広い視野を身につけること、論理的思考力を養うことなどをめざしています。

生物総合

「実物」に触れて学ぶ

生物総合では「実物を見る」ことを大事にして生物学の中でも系統分類と進化の分野について学びます。年間を通してほぼ毎週、解剖・観察や実験などを行っており、グループワークなども取り入れて生徒が主体的に学べる工夫をしています。解剖や観察では様々な生物(ヒドラ、プラナリア、ハマグリ、イカ、エビ、カニ、アジ、マウス、植物など)の形態や特徴を知ることにより生物同士が系統的にどのような関係にあるのか学んだり、環境にどのように適応してきたのかを予想したりすることができます。また、国立科学博物館見学など校外での実習も行っています。

世界史特講 A

過去の文脈を学び、未来をデザインする

世界史特講Aでは、テーマ史の探究学習を行います。前期のコーヒーの経済史では、青山学院高等部が支援している東ティモールのコーヒー農園の事例から、コーヒーのグローバルマーケットの歴史と課題、フェアトレードのあり方などについて議論します。後期の動物園の文化史では、古今東西の人と動物の関係を文化史の文脈から読み解き、未来の動物園のあり方を議論します。この単元では北海道の旭山動物園とZoomを用いた遠隔授業も実施します。

環境科学

「未来」を生きるための思索

身近な自然環境問題を科学的に調べ、未来に生かすことのできる知識を身につけます。講義の他、共通で行う実験、様々な環境問題(大気汚染物質の測定、食品添加物、温暖化、ゴミ問題、リサイクル、水の処理、放射性廃棄物、騒音、生物の多様性と絶滅、エネルギー問題など)の中から検証可能なテーマを選び、資料を集め、調査、実験、討論などを行い、最終的に論文にまとめ、研究発表します。

球技A/B ・ 体育特講(ダンス)

身体活動を通じて「表現力・リーダーシップ」を高める

球技A/Bでは、自分たちが選んだ種目をチームに分かれて分担し、計画・実行・評価まですべてを実践します。体育特講(ダンス)ではダンスを踊る・創るという活動を通じて互いの良さを認めあい、テーマ・振付・構成をすべて自分たちで考える発表会を行っています。「考える(計画)・課題発見・実践する(実践・解決)・評価する(自己評価)・探究する(考察)」事を自主的に行い、運動に対する理解を深めます。また、仲間との関わりを通して自らの経験や技術を人に伝えるという「表現力・リーダーシップ」を身につけることをめざしています。

SCHOOL CALENDAR

年間行事



3年間の思い出は 大切な仲間たちと一緒に

ホームルームデー

1・2年生を対象に、毎年5月の初旬にホームルームデー(クラス単位で行く日帰り旅行)を行っています。各クラスで自分たちの行きたい場所を独自に選び、企画運営し、親睦を深めています。



2年 ダンス発表会

自分たちが授業で考えたリズムやダンスを「ボディーパーカッション」として一つの作品に創り上げ、全員で発表します。発表会を通じて、クラスでの協力やお互いを認め思いやる気持ちを育むことを目標としています。



2年 陸上競技大会

授業での取り組みの成果発表として、クラス対抗の陸上競技大会を行います。7種目の競技を2日間かけて順番に行い、それぞれの配点を加算していき総合得点で順位を競います。競技会の運営も体育係を中心に行われます。

スキー教室

大自然の中、創造主に思いをよせ、謙虚な気持ちを育むと同時に、真冬の屋外スポーツを通じて、心と体を鍛え、仲間との親睦を図ることを目的に行っています。初心者から上級者まで参加しますが、それぞれの技術班に分かれて高等部の教員がスキーの技術指導を行っています。



4 APRIL	5 MAY	6 JUNE	7 JULY	8 AUGUST	9 SEPTEMBER	10 OCTOBER	11 NOVEMBER	12 DECEMBER	1 JANUARY	2 FEBRUARY	3 MARCH
- 入学式 - 新入生歓迎会 - クラブ紹介 - イースター礼拝 - 定期健康診断	- ホームルームデー 3年進学指導会 - 伝道週間	- バレーボール大会 - 生徒集会 (ミュージックフェスティバル) - グローバル・ウィーク I	- 夏期行事 - グリーンキャンプ - クラブ合宿・強化練習 - カナダホームステイ - 生徒会サマーキャンプ	- 夏期行事 - クラブ合宿・強化練習	- 文化祭 - レニャーニ校生徒訪問 2年進学指導会	- グローバル・ウィーク II - 伝道週間 - リースクール生徒訪問	2年修学旅行 - 青山学院創立記念日 2年ダンス発表会 - クリスマスツリー点火祭	- クリスマス礼拝 - スキー教室	- 推薦入試 - 帰国生入試 2年陸上大会	一般入試	- 卒業礼拝 - 送別会 - 卒業式 - スキー教室 - クラブ合宿



修学旅行

2年生の11月に九州を訪れます。各自研究テーマを持って、原爆資料館、軍艦島、九十九島めぐり、阿蘇山などさまざまな場所を訪れ、行く先々で歴史、自然、文学、生活、産業、地理などを学び、平和について考えます。(→P.10参照)



SCHOOL DAY

高等部の1日

7:30 開門	8:15 ~ 9:05 1 時 限	9:15 ~ 10:05 2 時 限	10:15 ~ 10:35 礼 拝	10:40 ~ 11:30 3 時 限	11:40 ~ 12:30 4 時 限
12:30 ~ 13:20 昼 休 み	13:20 ~ 13:30 H R	13:40 ~ 14:30 5 時 限	14:40 ~ 15:30 6 時 限	15:15 ~ 16:00 7 時 限	18:00 終 鈴
* (木)12:30~13:15		* (木)13:15~14:05		* (木のみ)総合的な探究の時間	



CLUB ACTIVITIES

クラブ活動



生徒中心で運営し
思いきり打ちこむ時間

クラブ活動は、人格形成の大切な機会として、各クラブの裁量に任せて生き生きと行われています。生徒の多くは、内部進学が可能な学校の特徴を活かして、3年生の半ばまで活動に打ち込んでいます。

[クラブ一覧]

文化系

クラブ

美術部
ブラスバンド部
マンドリン・ギター部
ライフ・サイエンス部

同好会

漫画・イラスト同好会
調理研究同好会
茶道同好会
弦楽アンサンブル同好会
生花同好会
演劇同好会

特設クラブ

A B F (聖書交友会)
ボランティア部
聖歌隊
ハンドベル部
オルガン部
出版部
放送部

体育系

卓球部
フェンシング部
剣道部
チアリーディング部
男子バスケットボール部
女子バスケットボール部
男子バレーボール部
女子バレーボール部
バドミントン部
男子ハンドボール部
女子ハンドボール部
サッカー部
ラグビー部
硬式野球部
陸上競技部
男子テニス部
女子テニス部
ソフトテニス部
柔道部
水泳部
馬術部
ゴルフ部
ダンス部



フェンシング部



卓球部



女子ハンドボール部

女子テニス部



馬術部



ハンドベル部



男子バレーボール部



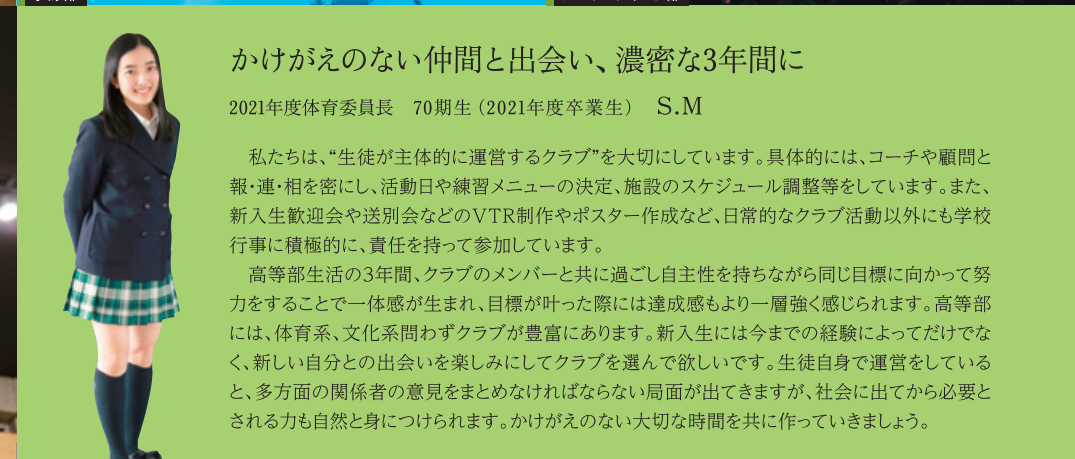
剣道部



水泳部



チアリーディング部



かけがえのない仲間と出会い、濃密な3年間に

2021年度体育委員長 70期生(2021年度卒業生) S.M

私たちは、「生徒が主体的に運営するクラブ」を大切にしています。具体的には、コーチや顧問と報・連・相を密にし、活動日や練習メニューの決定、施設のスケジュール調整等を行っています。また、新入生歓迎会や送別会などのVTR制作やポスター作成など、日常的なクラブ活動以外にも学校行事に積極的に、責任を持って参加しています。

高等部生活の3年間、クラブのメンバーと共に過ごし自主性を持ちながら同じ目標に向かって努力をすることで一体感が生まれ、目標が叶った際には達成感もより一層強く感じられます。高等部には、体育系、文化系問わずクラブが豊富にあります。新入生には今までの経験によってだけでなく、新しい自分との出会いを楽しみにしてクラブを選ん で欲しいです。生徒自身で運営をしていると、多方面の関係者の意見をまとめなければならない局面が出てきますが、社会に出てから必要とされる力も自然と身につけられます。かけがえのない大切な時間を共に作っていきましょう。



ブラスバンド部

[表彰]

体育系クラブ ●フェンシング部 東京都大会 男子学校対抗第2位、女子学校対抗第3位、女子個人対抗エヘ第3位、第4位、女子個人対抗サーブル第4位 ●柔道部 第66回東京都総合体育大会 兼 第70回全国高校柔道大会東京都第2支部予選会 男子団体戦 第8位、男子個人戦 90Kg級 第5位 ●女子テニス部 東京都高等学校テニス選手権大会 女子シングルス ベス

ト16、第60回東京都高等学校新人テニス選手権大会 優秀賞、第45回東京都私立中学高等学校テニス選手権大会 優秀賞 ●男子テニス部 第60回東京都高等学校新人テニス選手権大会 優秀賞 ●剣道部 令和3年度秋季剣道大会 団体男子の部 敢闘賞(ベスト8)、団体女子の部 第2位 ●馬術部 第57回関東高等学校自馬競技会 馬場馬術競技A2科目2013 2位、馬場馬術競技L1科目2013 3位 文化系クラブ ●聖歌隊 第88回NHK全国学校音楽コンクール東京都予選A 銀賞 ●美術部 第49回東京私立中学高等学校 生徒写真・美術展 特選、全日本学生美術展 油彩画 佳作

FACILITIES

校内施設

西校舎

ホームルーム教室
特別教室
-生物A・B
-調理
-被服
-書道
大教室
小教室
集会室
多用室
生徒会室
放送室
保健室
相談室

北校舎

ホームルーム教室
特別教室
-CALL教室A・B
-物理A・B
-化学A・B
-地学
-音楽
-美術
-工芸
-彫刻陶芸
音楽練習室
音楽練習室A・B・C
小教室A・B・C
多用室A・B
和室
進路資料室

PS講堂

講堂
オルガン練習室
図書館
PC実習室A・B

体育館

メインアリーナ
サブアリーナ
プレイルーム
柔道場
保健実習室
トレーニングルーム
更衣室
部室

カフェテリア

グラウンド

テニスコート

校外施設

高等部追分寮

2008年から2014年にかけて行われた高等部校舎建築。

古き良き伝統を受け継ぎながらも、時代の要請に沿って機能性、安全性の高い快適な環境づくりを進め、未来の教育の場にふさわしい校舎となっています。

明るい校舎と充実した施設・設備により学習環境が向上し、広々とした空間でクラブ活動もより一層のびのびと行えるようになりました。噴水のあるウッドデッキの中庭や、大きな藤棚に面したカフェテリアは、生徒たちの憩いの場となっています。



進路

高等部を卒業する生徒の約85%は、青山学院大学へ進学しています。

その他専攻分野などの関係で他の大学を受験する生徒が約15%おります。

内部進学は、高等部3年間の学業成績、3年次に行われる学力テストの結果その他を総合的に判断して推薦が行われ、大学側の決定を経て、入学が認められています。



青山学院大学への進学						
			2022年	2021年	2020年	
青山学院大学	文学部	英米文学科	11	17	19	
		フランス文学科	2	2	1	
		日本文学科	2	4	5	
		史学科	3	4	3	
		比較芸術学科	17	18	16	
	教育人間科学部	教育学科	17	22	15	
		心理学科	13	12	13	
	経済学部	経済学科	40	25	25	
		現代経済デザイン学科	4	4	6	
	法学部	法学科	25	24	20	
		ヒューマンライツ学科	11	-	-	
	経営学部	経営学科	53	53	53	
		マーケティング学科	32	32	32	
	国際政治経済学部	国際政治学科	23	23	23	
		国際経済学科	23	23	23	
		国際コミュニケーション学科	14	14	14	
	総合文化政策学部	総合文化政策学科	47	47	47	
	理工学部	物理・数理学科※	物理科学科	0	0	0
			数理サイエンス学科	0	0	
		化学・生命科学科	0	3	2	
		電気電子工学科	1	2	1	
		機械創造工学科	1	1	4	
		経営システム工学科	1	0	3	
		情報テクノロジー学科	8	6	3	
		社会情報学部	社会情報学科	10	4	11
		地球社会共生学部	地球社会共生学科	2	3	3
	コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学科	1	1	0	
計		361	344	342		
外部大学・その他		53	63	54		
卒業生総数		414	407	396		

※2021年4月に2学科に改編

生徒在籍数				
	ホームルーム数	男子	女子	計
第1学年	10	201	220	421
第2学年	10	191	224	415
第3学年	10	192	217	409
総計	30	584	661	1245

(2022年6月現在)

他大学合格者				
	学校名	2022年	2021年	2020年
国公立大学	岡山大学	1		
	金沢大学		1	
	京都大学	1		
	群馬大学		1	
	国際教養大学			1
	東京外国語大学			1
	東京藝術大学		2	1
	東京工業大学		1	
	東京大学		1	
	一橋大学	1	1	
	弘前大学			1
	山口大学		1	
	横浜国立大学		2	
	和歌山県立医科大学	1		
	その他の国公立大学	0	0	0
私立大学	岩手医科大学	2	1	
	金沢医科大学			1
	北里大学	5	5	1
	慶應義塾大学	15	20	7
	国際医療福祉大学		2	1
	国際基督教大学	1	1	2
	芝浦工業大学	1	2	
	上智大学	9	7	7
	昭和薬科大学		1	1
	聖マリアンナ医科大学	1	6	4
	多摩美術大学	2	2	2
	中央大学	6	2	3
	東京医科大学	1	4	2
	東京医療保健大学	1	2	
	東京音楽大学			1
	東京歯科大学			1
	東京女子医科大学	1	2	2
	東京薬科大学	1		
	東京理科大学	11	5	7
	同志社大学	1		1
	東邦大学	1	4	1
	獨協医科大学		1	1
	日本歯科大学	1	3	1
	日本獣医生命科学大学			1
外国の大学・留学	日本赤十字看護大学	1	1	
	星薬科大学		1	
	武蔵野美術大学	3	1	1
	明治大学	10	8	4
	立教大学	3	5	3
	立命館大学	1	1	
	早稲田大学	13	13	6
	その他の私立大学	48	87	29
		1	3	1

(2022年4月現在)
(国公立立50音順 過年度卒業生を含む)

高等部で世界に一台となる パイプオルガンに出会ってください

椎名 雄一郎 さん
オルガニスト 東北学院大学文学部教授

Profile
1993年、高等部卒業。東京藝術大学大学院
修了後にウーンとバーゼルで4年間留学する。
2005年より10年かけてバツハ・オルガン全作品
演奏会を完結。演奏の録音は「レコード芸術」
誌の特選盤に選ばれている。活水女子大学教
授を務めたのちに2022年4月から現職。



中学までキリスト教とも宗教音楽とも関係のない世界で生きていた私をこの世界に導いたのは、高等部の入学式で聴いたオルガン演奏です。青山学院のオルガン部の卒業生には、さまざまな専門分野からこの世界を支える方々がいます。たとえば建造家の故辻宏氏は、日本のパイプオルガンの草分け的存在です。あるとき、辻さん建造のパイプオルガンの一つの音を「もう少し鳴るように調整してください」とお願いしたところ、「人間の声が一人一人違うように、オルガンのパイプもすべて違うのが当たり前であり、それを揃えるのは、個性をなくすことだ」と教えていただきました。これはまさに高等部の教育に通じます。パイプオルガンは一台一台、鍵盤の大きさ、幅さえ違います。そのため、演奏会の際などには、それぞれの楽器特性を知り、慣れるために、入念に練習をします。一台一台が異なる個性を持っているため、常に新しい出会いがあります。高等部にも、幼稚園から青山学院に通っている人もいれば、帰国生もいます。私は高等部から入学しましたが、中等部出身者とも入学直後からすぐに仲良くなれました。それも、一人一人が互いの個性を尊重し、認め合える環境だったからだと思います。東京藝術大学への進学を考えたときには両親から大反対されましたが、高等部の先生は私の志望を受け入れ、親身になって両親を説得してくれました。また、入学式の礼拝で聴いた「狭い門から入りなさい」という聖書箇所(マタイ7章13節)は、とても心に残っています。当時の部長先生が、「高等部生活の中で狭き門を見つけなさい」とお話をされたのですが、自分が信じたことであれば、だれも行かない道であっても突き進みなさいと言われたような気がしました。

受験に特化しない高等部の授業は、今の活動にも役立っています。英文の速読では、全体を見て内容を理解する力がつきました。1年間かけて学んだドイツ史では、歴史だけではなく、専門的な研究の仕方や情報の得方も学びました。先生が一方向的に教えるのではなく、生徒が自ら探究して発表する授業は、今でいう双方向的な授業です。画一的なものの見方ではなく、自分で考え、発想する力は高等部で身につきました。

高等部にパイプオルガンを導入するために、現在多くの卒業生と準備を進めています。新しいオルガンは、高等部の生徒の学びのために、そして文化財としても100年以上も存在するでしょう。高等部のPS講堂で、世界で一台の楽器に出会えることを楽しみにしています。

MESSAGE

卒業生メッセージ

自由に考え、行動する環境が 起業マインドにつながりました

藤井 悠夏 さん
aMi代表取締役

Profile
シリア生まれ東京育ち。2002年に高等部を卒業し、青山学院大学国際政治経済学部に入學。2006年に(株)リクルートに入社。2010年に退職し、ベトナム、シンガポールでブライダルメディア事業を経て2014年に帰国。現在は撮影プラットフォームを運営するaMiの代表を務める。

帰国生入試で青山学院に入學した私にとって、英語教育のレベルの高さや自由な雰囲気は、海外での生活と比べても違和感を感じないものでした。皆が自分の好きなことを追及していて、私はバンド活動やアルバイトなどを経験しながら伸び伸びと過ごしていました。ガールズバンドのドラムス担当として、高等部のミュージックフェスティバルや渋谷のライブハウスeggmanで演奏などもしました。

大学受験を目的とした高校生活ではなかったからこそ、大学で何をするか時間をかけて考えることができました。中学のときに貧富の差が激しいドバイで生活し、自分の意思だけでは決められない人生があると知り、そのような問題を解決するためには、世の中の仕組みを変えることが必要と考えて国際政治経済学部に進学しました。大学入学前にあるオリエンテーションでは、社会問題を解決するためには教育、政治、ビジネスなど、さまざまな角度からのアプローチがあると知る機会となりました。そこで大学1年次からインターンを始めたり、フリーペーパーを創刊し、大学の図書館で実業家・藤田晋さんの本に出会い感銘を受け、インタビューさせていただいたこともあります。大学時代のベンチャー企業でのインターン経験や、海外でのボランティア活動などは、後の私の「起業」につながっています。

高等部生に向けて社会人としてお話をする機会をいただいた際に、高等部の生徒の中には起業に興味を持つ人が多くいるとうかがいました。その理由は、体育祭を実施するかどうかさえ生徒自身が考え、運営方法も生徒が考えることのできる、主体性を大切にする学校生活にあるかもしれません。一人一人が自立して考え、行動することで、お互いの価値観を尊重し合うことができるのだと思います。もしも、決められたことをやりこなすだけの高校生活を送っていたとしたら、良い大学に合格して良い会社就職する、それが人生のゴールと考えて、今とはまったく違う人生だったかもしれません。「こうしなければならない」ではなく、自由に考え行動することのできる高等部の生活は、やりたいことに向かって存分に楽しむことができる時間でした。

入試情報

2023年度入学試験について

※新型コロナウイルス感染症の状況等により変更の可能性があります。

		推薦入試	帰国生入試	一般入試
募集人員		男女合わせて約70名	男女合わせて約30名	男女合わせて約80名
出願資格		1 本校を第一志望とし、合格の際は入学を確約できる者。 2 2007(平成19)年4月2日より2008(平成20)年4月1日までに出生の者で、2021年4月以降国内の中学校(学校教育法第1条に掲げられた中学校もしくは中等教育学校の前期課程)に在籍し、2023年3月に卒業・修了見込みの者。 3 3年2学期の9教科の評定合計(5段階)が男子38以上、女子41以上であること。また、2年次の学年評定および3年2学期の評定に「2」以下がないこと。 ※ 3年2学期の評定とは、12月時点の成績(1学期からの総合成績)で、公立高校に提出する成績と同一のものであること。 4 3年次の欠席日数が5日以内で、2・3年次の欠席日数の合計が10日以内であること。 5 保護者のもとから通学可能な者(一般入試の項参照)。 ※ 上記の出願資格条件は、推薦入試合格を確約するものではありません。 1 保護者の海外勤務等に伴い、1年以上継続して、現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校に在籍していた者で、帰国後2年10ヶ月以内(2023年度入試の場合、2020年6月以降の帰国)であること。 ※ なお、本校への入学予定日(4月1日)を資格算定の基準とします。 ※ 本人が単独で海外留学した場合は該当しません。 2 2006(平成18)年4月2日より2008(平成20)年4月1日までに出生の者で、次の[A]、[B]のいずれかに該当する者。 A 2023年3月に中学校を卒業見込みの者または2022年3月に中学校を卒業した者。 B 海外の現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校いずれかに在籍している者(もしくはこれらの学校で中学課程を修了した者)。なお、日本の学齢に換算して中学3年生にあたる場合は、出願時に現地のGrade9を修了していなくてもよい。 3 保護者のもとから通学可能な者(一般入試の項参照)。 1 2006(平成18)年4月2日より2008(平成20)年4月1日までに出生の者で、次の[A]、[B]のいずれかに該当する者。 A 2023年3月に中学校を卒業見込みの者または2022年3月に中学校を卒業した者。 B 海外の現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校いずれかに在籍している者(もしくはこれらの学校で中学課程を修了した者)。なお、日本の学齢に換算して中学3年生にあたる場合は、出願時に現地のGrade9を修了していなくてもよい。 2 保護者のもとから通学可能な者(本人のみの下宿、アパート、会社等の子弟寮からの通学は認めておりません)。 保護者は父もしくは母が原則ですが、やむを得ない理由で不可能な場合は、東京またはその近辺に一家計を立て(就学中の兄・姉等は不可)、学校との連絡が容易にとれ、直ちに来校できる、親権者と同等の責任を持つ在京保証人が必要であり、入学後はその家庭から通学していただくことを条件といたします。		
選抜方法		適性検査、面接、書類審査	適性検査、面接、書類審査	国語・数学・英語(リスニング含む)、書類審査
インターネット出願入力期間		12月20日(火)0:00~1月16日(月)18:00	12月1日(木)0:00~1月10日(火)18:00	12月20日(火)0:00~1月27日(金)18:00
出願書類受付期間(郵送のみ)		1月15日(日)~1月16日(月) 〈締切日消印有効〉	1月6日(金)~1月10日(火) 〈締切日消印有効〉	1月25日(水)~1月27日(金) 〈締切日消印有効〉
入学試験日		1月31日(火)	1月31日(火)	2月11日(土)
合格発表(インターネットのみ)手続書類交付		2月1日(水)20:00~(予定)	2月1日(水)20:00~(予定)	2月12日(日)20:00~(予定)
入学手続き	書類提出	2月2日(木)13:00~14:00	2月2日(木)14:30~15:30	2月13日(月)13:00~14:00
	入学金納付期限(ネット決済)	入学金・施設設備料あわせて 2月2日(木)14:00	2月2日(木)15:30	2月13日(月)14:00
	施設設備料納付期限(ネット決済)		2月20日(月)12:00	
入学者説明会		3月4日(土)午後(時間未定)		

入試結果

		推薦入試					帰国生入試					一般入試							
		募集人員		志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	募集人員		志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	募集人員		志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
2022年	男女 合わせて 約70名	男子		76	75	33	2.3	男女 合わせて 約30名	男子	101	78	29	2.7	男女 合わせて 約80名	男子	448	371	101	3.7
		女子		172	170	38	4.5		女子	124	103	42	2.5		女子	600	519	102	5.1
		計		248	245	71	3.5		計	225	181	71	2.5		計	1048	890	203	4.4
2021年	男女 合わせて 約70名	男子		97	94	35	2.7	男女 合わせて 約30名	男子	113	85	34	2.5	男女 合わせて 約80名	男子	389	323	103	3.1
		女子		181	179	41	4.4		女子	134	113	49	2.3		女子	599	510	113	4.5
		計		278	273	76	3.6		計	247	198	83	2.4		計	988	833	216	3.9
2020年	男女 合わせて 約70名	男子		79	77	36	2.1	男女 合わせて 約30名	男子	95	76	36	2.1	男女 合わせて 約80名	男子	459	398	100	4.0
		女子		145	143	42	3.4		女子	127	95	52	1.8		女子	561	469	111	4.2
		計		224	220	78	2.8		計	222	171	88	1.9		計	1020	867	211	4.1

学費一覧

※下記学費等は事情により改定されることもありますので、あらかじめお含みおください。
※納付方法は学期ごとの分納となります。

(2022年 4月入学生)			
	1年	2年	3年
入学金	320,000		
施設設備料	220,000	220,000	220,000
授業料	600,000	600,000	600,000
実習料	5,000	5,000	5,000
保健料(消費税込)	6,000	6,000	6,000
冷暖房料	12,000	12,000	12,000
後援会会費	22,000	22,000	22,000
生徒会入会金	5,000		
生徒会会費	12,000	12,000	12,000
修学旅行積立金	80,000	65,000	
卒業積立金			55,000
合 計	1,282,000	942,000	932,000

入学初年度の費用としては、次のようなものがあります。

※一般入試・帰国生入試の入学手続に際し、施設設備料に限り、納付を延期することができます。

(2022年 4月入学生)		
入学前 (入学手続き時)	入学金	320,000
	施設設備料	220,000
	合計	540,000
入学後 (各学期ごと 3回の分納)	授業料	600,000
	実習料・保健料・冷暖房料	23,000
	後援会会費	22,000
	生徒会入会金・会費	17,000
	修学旅行積立金	80,000
合計		742,000
その他の 購入費用	制服	40,000~60,000
	教科書	32,000~41,000
	体育着・シューズ等	38,000~46,000

奨学金制度

人物・学力ともに優れていながら経済的な補助を必要とする生徒に、東京都および各県の高校奨学金、独立行政法人日本学生支援機構大学予約奨学金等の奨学金制度があります。
本校としても次のような独自の奨学金制度を設けています。

給付奨学金	
青山学院高等部 奨学金	高等部の退職教職員・同窓会などからの寄付をもとにしたものです。 経済的に特に困窮している生徒に対して給付の形で奨学金を支給します。
青山学院 スカラーシップ奨学金	青山学院校友会から経済的に特に困窮している生徒に対して給付の形で奨学金を支給します。
青山学院 万代基金給付奨学金	青山学院万代基金から経済的に特に困窮している生徒に対して給付の形で奨学金を支給します。
青山学院万代奨学金 高等部特別奨学生	本学院の学友であり、理事でもあった故万代順四郎氏の寄付を基金として設けられたもので、学業成績、人物ともに優れた生徒若干名に顕彰のため奨学金を給付しています。
友情資金に基づく 奨学金	生徒会で月1回、生徒の自発的意志によって献金されたものを、生徒会員の中で経済的補助を必要とする生徒に給付しています。
貸与奨学金	
青山学院 万代奨学金	故万代順四郎氏の寄付を基金として設けられたもので、東京都および各県の奨学金制度の資格基準に準じて貸与しています。
授業料軽減制度	本校の制度ではありませんが、授業料軽減制度には次のようなものがあります。
高等学校等 就学支援金	国の法律に基づく全国一律の制度です。家庭の教育費負担を軽減するために、住民税額が一定額未満の世帯に支給されます。
東京都 私立高等学校等 授業料軽減助成事業	保護者と生徒がともに東京都内に居住しており、東京都内の私立高等学校等に通学している生徒の保護者に、その経済的負担を軽減することを目的として、授業料の一部を軽減する制度です。

学校説明会

日程・実施形態等を変更させていただく場合があります。
ご来校前に本校ウェブサイトをご確認ください。

◎ 第1回 校舎見学・個別相談会 **10月1日(土)**

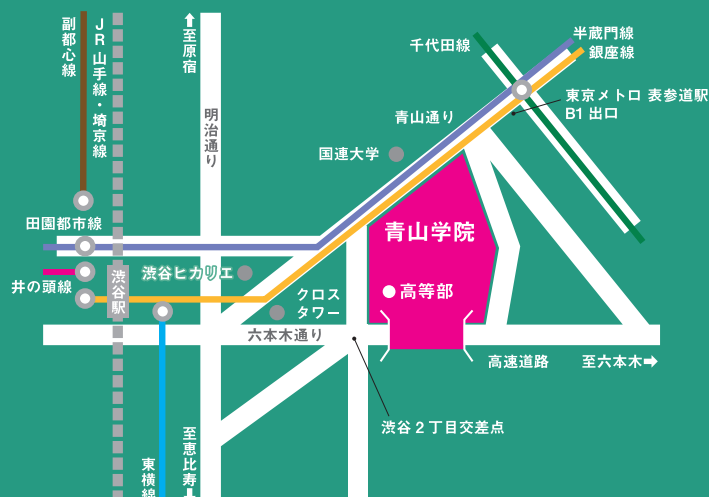
◎ 第2回 校舎見学・個別相談会 **10月8日(土)**

◎ 一時帰国の方対象 説明会 **7月26日(火)**

注意

※ インターネット予約が必要です。

※ 学校説明会の詳細については、決まり次第、本校ウェブサイトでお知らせします。



青山学院高等部
Aoyama Gakuin Senior High School

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL 03-3409-3880(高等部直通)

FAX 03-3409-5784(高等部)

<https://www.agh.aoyama.ed.jp/>

